



令和8年 1月 30日(金)

静岡 大学 教育学部

附属 静岡 小学校

2年 学年だより 2月号

「ありがとう」を行動で！！

2月を迎え、学校全体が次の季節へと歩みを進める中、つながりの子どもたちは「1年間、学校のリーダーとして私たちを支えてくれた6年生に、感謝の気持ちを伝えたい」という思いをもって活動に取り組んでいます。6年生を送る会に向けたプレゼント作りでは、一人ひとりがメッセージを書きながら「どんな言葉なら気持ちが伝わるだろう」「自分の思いをどう表せばよいのだろう」と、相手の姿を思い浮かべて考える姿が見られました。その背景には、キャプテンを中心とした話し合いの積み重ねがあります。各クラスのアイディアを持ち寄り「6年生に喜んでもらうために、私たちにできることは何か」「本当にみんなの思いと重なっているだろうか」と、学校全体のスローガンと照らし合わせながら、出し物やプレゼントの内容について話し合う姿がありました。互いの考えに耳を傾け、よさを認め合いながら一つの方向を見いだしていく姿からは、クラスの代表としての自覚と責任感が強く感じられます。

また、5年生から提案された輪飾り作りにも取り組みました。はじめは、クラスで決められた本数を目標に、班ごとに活動が進んでいました。自分たちの分を黙々と作り、完成した輪飾りを数えながら、少しずつ本数を増やしていく姿がありました。やがて、完成した輪飾りの数が20本に近づくにつれ、子どもたちの意識は、班からクラスへと自然に広がっていきました。「あと何本？」「こっちはもうできたよ」と声をかけ合い、互いの手元を気にかけてながら動く姿が見られるようになり、その場は熱を帯びていました。折り紙が足りなくなると「先生、折り紙を持っているから俺の使っていいよ」「私たちが切るから、先にセロハンテープで貼っていて」と、必要なことを自分たちで見つけ、役割を分担していく姿がありました。そこには、誰かに指示された動きではなく「6年生を喜ばせたい」「クラスで20本を達成したい」という思いが、確かにありました。

プレゼントと輪飾り一つ一つに込められた思いと、クラス全体で一つの目標に向かって動いた時間は、子どもたちにとって忘れがたい経験になったのではないかと感じています。

「それじゃあ、伝わらないよ…」

クラスが今、最も熱を帯びて取り組んでいるものを発表する機会が「つどい」です。年末から話し合いを重ねてきたこの行事に対して、子どもたちの思いはとて強く、役割分担や進行の流れも、自分たちで考え、つくり上げてきています。一つ一つの場面に向き合う姿からは、確かな成長が感じられます。活動を進めていく中で、ある子が「それじゃあ、伝わらないよ」と声を上げる場面がありました。その一言は「自分たちは何を伝えたいのか」「何のためにこの活動をしているのか」を、もう一度立ち止まって考えるきっかけとなりました。そこからは、子どもたちだけで話し合いを重ね、どうすればよりよいものになるのか、試行錯誤する姿が続いています。

つどいに向けた取り組みは、演技の完成を目指すことが目的ではありません。子どもたちが何を大事にし、どんな思いを伝えたいのかを問い続ける過程そのものに、大きな学びがあります。

参観にお越しの際には、ぜひ、子どもたちが「何を大切にしながら」「何を伝えようとしているのか」という視点で、その姿をご覧いただけたらと思います。

1月号でふれた持久走の取り組みと同様に、今、子どもたちの中では「ありがとうを伝えること」「つどいで自分たちの思いをとどけること」もまた、特別な行事のためだけのものではなく、日常の延長として息づいています。感謝の気持ちは言葉だけでなく、行動や姿となって表れること。子どもたちは、日々の経験を通して、感謝を行動で示すことの大切さをしっかり学んでいます。